緑の種子

北原白秋

青空文庫

緑の種子

種子(たね)はこれ感覚の粋(すゐ)、
緑は金の陰影(かげ)にして、幽かに泣くはわが心。

種子を哀(かな)しめ、よきひとよ、
冷たく、小さき芥子のたね、その一粒(ひとつぶ)に心せよ、
歔欷(すすりな)けかし、日の光。

種子(たね)はこれ霊魂(たましひ)の粋、
生ける宝石、「時(とき)」の秒、金と緑の夜の秘密、
淫慾の芽の潜伏所(かくればしよ)、
阿片(オピウム)の精。

種子を哀(かな)しめ、よきひとよ、
緑は色の粋にして、

智慧と不思議と生滅の見えざる悲劇、
万華鏡。

消え去り難き幽霊の
芥子の緑に泣くごとく、
裏切したる歓会の醒めて哀しきわが心。

種子を哀しめ、よきひとよ、
歔欷かし、日の光。

四十五年八月

棗の樹

映画の中に一本の棗の樹あり。
以太利の街なれば日の光黄色なりけり。
棗には実ありき、その実いと赤かるべきも、

ただ黄にかがやきて影を落せり。

急がしきシネマトグラフの中なれば、誰とわかねど突拍子もなく現はれて気狂のごと
自転車乗の若紳士走り廻れり、
何時までも何時までも銀の輪の走り廻れり。

うしろに宝石商の飾※あり、舗石あり、樹の反射あり。
黒く優しき貴夫人も過ぎゆきにけり。
棗はかがやく。その男走り廻れば
愚かや乗れるその車輪慄へつつ縮まりてゆく。

悲しくわかき男かな、ワイシヤツに鼻眼鏡して、
突き当り、跳ねころべども起き直り、走り廻れり。
尻振りざまのをかしさよ、そのペタル縮まりて玩弄品のごとく
今は早や踏むにも堪へね、ひたぶるに走り廻れり。

棗はかがやく。サンドウヰツチ売の爺は驚く。

悪戯小僧は栗鼠のごと木にかけのぼる。
銀の輪は走り廻れり――ありとある、頓狂に戯けたれども、
ただにわが憂愁の外にのみ急がしく瞬きにけり。

映画の中に一本の棗の樹あり、
以太利の街なればその実いと黄色なりけり、
棗は光りき、されども影の影なればある甲斐もなく
見る人の心に耀やきて、また倏忽に消え失せにけり。

大正元年九月

人食ふひと

こはそもいづくの空なるや、
はた何時なりや、誰なるや、
人食ふ人ら背も矮く

ひそと声せず、身じろがず。
蹲(かが)みて嗅(か)ぐはなにごとか、
はた、なになれば眼も狭く
地の一点を凝視(みつ)むらむ。
銀鐘のごと日は光る。

青き波紋の刺青(いれずみ)に
あくまで黒き頬は青く、
裸の腕(うで)に一枚の
皆朱(かいしゅ)の布(ぬの)をひきかつぐ。

悪しき心の真昼時
印度当麻(いんどたえま)の香の中に
笑まず狂はず、しんしんと
ひもじきごとし、泣くごとし。

血の悦楽にたましひの
ふかきうめきを忍ぶにか、
かつ現身(うつそみ)を悲哀(かなしみ)の
糧(かて)と食むにか、さげすむか。

淫慾(いんよく)の肌うつくしく
時に緑蛇ぞ走りゆく、
息蒸すばかり恐ろしき
酷暑の光、葉の湿(しめ)り。

悪しき神々しろしめす
印度当麻(いんどたへま)の真昼時、
すべて事なし、声もなく、
はたや、そよとの風もなし。

大正二年四月

ペンギン

見知らぬ海と空とに
鳴いてゐる、鳴いてゐる、ペンギン、
なにを鳴くのか、ペンギン、
光と陰影(かげ)の申子(まをしご)。

冷(つめ)たい氷のうへから
歌ふてくるペンギン、
なにを慕ふのか、ペンギン、
寂しい空のこころに。

おそれも悔(くい)もない気(け)ぶりで、
あるいてくる、ペンギン、
なにが楽しいのか、ペンギン、
大勢(おほぜい)あつまつて、のんきに。

紺と白との燕尾服(えんび)で、
ものおもふペンギン、
なにが悲しいのか、小意気な
わかい紳士のペンギン。

さらさら悲しい様子(やうす)も、
うれしさうにもない、ペンギン、
なにを慕ふのか、ペンギン、
幽かな空の光に。

四十五年五月

万年青

ほれ／〃＼と空に小鳥をとりにがし、
君涙して悲めどそれもせんなや。
ひと鉢の万年青(おもと)すら、いまはその児に、

手をのべてこそ匍ひ寄りし君がその児に、
人妻よ、二人してふかく秘めたる赤き実も
遂に知られて、あまつさへ、もぎりとらるゝ。

四十五年四月

悲みの奥

白く悲しく、数あまた
釣鐘の花咲きにけり。
緑こまかき神経の
悲しみの径、園の奥、
金の光にわけ入れば
アスパロガスの葉のかげに
涙はしじにふりそそぎ、
小鳥来鳴かず、君見えず、
空も盲ひし真昼時、

白く悲しく、数(かず)あまた
釣鐘の花咲きにけり。

四十五年五月

夕とどろき

春が逝く。……廃果(すたれは)てたメトロポウルホテルに、
やはらかな日の光る五時半、
萎れた千鳥草と、石鹸(しやぼん)の泡のやうな
白い小さな花をつけた雑草のなかを、
やつと五歳(いつつ)のタアシヤーが押されてゆく、乳母車に載つて、
『銀(ぎん)だ、黄色だ、紅(あか)だ、緑だ、よういいいいいい……』

春が逝(ゆ)く。……暖かな外光のなかを、
軽い小児の夏帽が光つてゆく、河の見える方へ、
さうして、支那人の老婦(ばあや)が後(うしろ)から黙(だま)つて、

のんびりと、その車を押してゆくと、遠くで
意味のない叫びがきこえる、なつかしい五月のものの音が、
『銀だ、黄色だ、紅だ、緑だ、よういい……』

春が逝く。……幽かに汗ばんで来た棕梠の木と、
低く燻ぶつた樫の木の間から、
鉄柵を透いて道路が見え、白い蒸汽の檣が見える。
大河に恍惚とゆく帆船、短艇、煙、水面、
それらが揃つて日に蔭ると、何といふことなしに、
『銀だ、黄色だ、紅だ、緑だ、よういい……』

春が逝く。……夏が来てさへ、一人の旅客も
もう訪ねて来る気色もない寂しさ。
みんな閉めきつた窓硝子の
ところどころに孔があいて、屋根にはいつのまにか
草が生へた……車から抱いて下ろすと、
坊やのリンネルの薔薇いろがかがやく。

『銀だ、黄色だ、紅だ、緑だ、よういい……』

春が逝く。……外廊の古びた円い石柱に、
その蔭に坐つてゐる、支那の老婦が
黒い繻子の服の寂しさ……タアシヤーは地面の
雑草の花をつまんでは揉る、さも無心に。
さうして春が暮れてゆく、月島の方から、何といふことなしに
『銀だ、黄色だ、紅だ、緑だ、よういい……』

四十五年五月

石竹

障子閉めても、石竹の
花は出窓にいと赤し、
障子閉めつつ、自堕落に
二人並んで寝そべれど、

花はしみじみ、まだ赤し。
愚かなる花、小さき石竹。

四十五年五月

屋根の風見

子を奪ろ、子奪ろ、
鴻の巣の窓に
硝子が光る。
露西亜のサモワル、紅茶の息に
かつかと光る。
江戸橋、荒布橋。
青い燈が点く……向うの屋根に
株の風見がくるくるまはる。
晴か、曇りか、霙か、雪か、
雲はあかるし、夕日は寒し、

七歳お店の長松さへも
黒い前掛ちよいとしめて、
空を見上げちや真面目顔、
真面目顔。

四十四年十一月

初冬のわかれ

冷えてあかるき園の中、
ただに噴水ぞゆらぐなる。
夏の記憶のなほ白き
楕円の、菱の花畑
なべてすがれて日も入りぬ。

けふの小径にわかるれば
紅さるびあの花老けし、

あとに悩(さも)しく笑ふなり、
色情狂(いろきちがひ)の前髪の
花かんざしを見るごとく。

枯れくさの香(か)に、夜のかげに
弱き児猫も匍(は)ひめぐる。
すべて死したる同胞(はらから)の
耳のあたりに目をよせて
鳴くもさみしや、針芝に。

冷えてあかるき園の中(うち)
空に噴水(ふきみづ)ぞゆらぐなる。
白雪のごと、玻璃のごと、
君が消えたる襟巻の
鳥の羽(はね)よりなほ白く。

四十四年十一月

黒ダリヤ

烏羽玉（うばたま）の黒きダリヤを胸にあて
加特力（カトリコ）の尼はなにをかゆめむらむ。
角帽子（つのぼうし）雪かとばかりわななけど、
声さへ立てず、緑玉（えめろうど）、息（いき）をひそめし瞳こそ
精霊（しやうれい）の日本の秋の啜泣（すゝりなき）吸ひ取る如し、泣く如し。
片恋（かたこひ）の清きうれひに泣く人よ。
煩悩（ぼんなう）の塵うち払ひ、しづ〳〵と入日のかたに歩みつゝ、
冷やかに尼（あま）のごとくも涙せよ。
紅（べに）びろうどのいと黒き
つや〳〵と胸のあたりに光るとき。

四十四年十月

春を待つ間に

種子(たね)を蒔け種子を、
葡萄の種子を。
畑を耕け、畑を、
燕麦(からすむぎ)の畑を。
生めよ、殖(ふ)えよ、地に満てよ。
哀(かな)しきものは踊れよ。
新らしき子らの世継(よつぎ)の
饗宴の春を待つ間に。

四十四年十一月

青空文庫情報

底本：「白秋全集　3」岩波書店
　　1985（昭和60）年5月7日発行
底本の親本：「雪と花火」東雲堂書店
　　1916（大正5）年7月1日
初出：緑の種子「朱欒　2巻9号」
　　1912（大正元）年9月1日
　　棗の樹「白樺　3巻10号」
　　1912（大正元）年10月1日
　　人食ふひと「朱欒　3巻4号」
　　1913（大正2）年4月1日
　　ペンギン「朱欒　2巻6号」
　　1912（明治45）年6月1日
　　悲みの奥「朱欒　2巻6号」
　　1912（明治45）年6月1日
　　夕とどろき「朱欒　2巻6号」

1912（明治45）年6月1日
石竹「朱欒　2巻6号」
1912（明治45）年6月1日
屋根の風見「朱欒　1巻2号」
1911（明治44）年12月1日
初冬のわかれ「朱欒　1巻2号」
1911（明治44）年12月1日
春を待つ間に「朱欒　1巻2号」
1911（明治44）年12月1日

※「緑の種子」の初出時の表題は「種子（ラムボオ）」です。
※「夕とどろき」の初出時の表題は「外光」です。
※「……」は「……」で入力しました。

入力：岡村和彦
校正：フクポー
2017年4月3日作成

青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られまし

た。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

緑の種子

北原白秋

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/